HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	［目録］唐澤隆三・冨美子関係資料
Author(s)	山本, 美穂子//解題
Citation	北海道大学大学文書館年報, 7, 93-104
Issue Date	2012-03-31
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/49412
Type	other
File Information	ARHUA7_005.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

＜ 資　　料 ＞

〔目録〕唐澤隆三・冨美子関係資料

1．唐澤隆三関係資料目録

資料番号	資料表記			年代
	資料名	年・年度・自至	作成者	
【ノート類 B】				
唐澤B - 1	「確率と統計　1979年　豊島高(定)唐沢隆三」(授業ノート)	1979年	唐澤隆三	1979
【文書類 F】				
唐澤F - 1	[卒業]証明書(北大理証卒第拾五号／唐澤隆三)	昭和18年９月25日	北海道帝国大学理学部長	1943
唐澤F - 2	教練検定合格証明書(唐澤隆三)	昭和18年９月25日	倉橋尚（北海道帝国大学配属将校）	1943
唐澤F - 3	[大学院特別研究生合格通知](唐澤隆三)	昭和18年10月５日	北海道帝国大学理学部	1943
唐澤F - 4	[教員適格審査]判定書(唐澤隆三)(写)	昭和21年８月22日	長野県教員適格審査委員長	1946
唐澤F - 5	[発令通知(応用電気研究所に於ける数学に関する研究嘱託)](唐澤隆三)	昭和22年10月７日	北海道大学	1947
唐澤F - 6	[発令通知(副手)](研究嘱託 唐澤隆三)	昭和23年１月31日	北海道大学	1948
唐澤F - 7	[任命通知(研究員)](唐澤隆三)(写)	昭和23年３月31日	伊藤誠哉（北海道大学総長）	1948
唐澤F - 8	[分課命令(数学部門)](副手 唐澤隆三)(写)	昭和23年１月31日	[北海道大学] 応用電気研究所	1948
唐澤F - 9	[発令通知(７級５号俸)](文部教官　唐澤隆三)(写)	昭和25年２月28日	北海道大学事務局庶務課	1950
唐澤F -10	[辞令(文部教官)](唐澤隆三)(写)	昭和25年２月28日	伊藤誠哉（北海道大学長）	1950
唐澤F -11	[辞令(文部教官免官)](唐澤隆三)	昭和25年６月30日	北海道大学	1950
唐澤F -12	俸給諸手当内訳表(唐澤隆三)(写)	昭和23年６～８月分 昭和24年９月分 昭和25年６月分	[北海道大学応用電気研究所]	1948-1950
唐澤F -13	履歴書	昭和18年１月20日	唐澤隆三	1943
唐澤F -14	[履歴書(昭和18年９月～昭和20年９月)]	[昭和20年９月]	唐澤隆三	1945
唐澤F -15	[理学部数学科学士試験合格]証明書(北大理証第十八号/唐澤隆三)	昭和25年４月21日	松浦一（北海道大学理学部長）	1950

資料番号	資料表記			年代
	資料名	年・年度・自至	作成者	
唐澤Ｆ-16	唐澤隆三宛「履歴証明及び退職手当の支給に関する証明について(回答)」(履歴証明･退職手当支給証明付き)(写)	昭和54年１月５日	松森隆(北海道大学庶務部人事課長)	1979
唐澤Ｆ-17	戸籍謄本(唐澤隆三)	平成18年５月24日	志村豊志郎(東京都練馬区長)	2006
唐澤Ｆ-18	卒業証明書(海大理卒証第88号／唐澤隆三)(写)	平成18年５月29日	岡田尚武(北海道大学理学部長)	2006
唐澤Ｆ-19	[成績]証明書(海大理証370号／唐澤隆三)(写)	平成18年５月29日	岡田尚武(北海道大学理学部長)	2006
【刊行物　G】				
唐澤Ｇ-１	『柳』	昭和29年12月～平成23年２月	唐澤隆三(ソオル社)	1954-2011
唐澤Ｇ-２	『美』第１，２，５，32，34，133，146，155，156号	平成11年２月～平成17年10月	唐澤隆三(ソオル社)	1999-2005
唐澤Ｇ-３	『わが非戦論史』	昭和31年９月５日発行	石川三四郎(ソオル社)	1956
唐澤Ｇ-４	『自由律俳句史雑記』	昭和46年11月１日発行	唐澤隆三(ソオル社)	1971
唐澤Ｇ-５	『自由律俳句史ところどころ』	昭和40年５月４日発行	唐澤隆三(ソオル社)	1965
唐澤Ｇ-６	『馬の足　雑文集』	昭和47年７月１日発行	唐澤隆三(ソオル社)	1972
唐澤Ｇ-７	『ふるさと　詩集』	昭和48年５月４日発行	唐澤隆三(ソオル社)	1973

２．唐澤冨美子関係資料目録

資料番号	資料表記			年代
	資料名	年・年度・自至	作成者	
【ノート類　B】				
大杉Ｂ-１	「非ゆうくりっど幾何学」(梶島二郎､内田老鶴圃1922年出版の筆写ノート)	[昭和６～10年度]	大杉冨美子	1931-1936
大杉Ｂ-２	「AUTOMORPHIC FUNCTIONS BY LESTER R. FORD, PH. D.」(1929年第１版の筆写ノート)	[昭和16～18年]	大杉冨美子	1941-1943
大杉Ｂ-３	[入江盛一助教授「複素変数函数論」の演習ノート](写)	[昭和17年]	大杉冨美子	1942
大杉Ｂ-４	「函数論」(写)	[昭和17年度]	大杉冨美子	1942-1943
大杉Ｂ-５	「解析集合論　功力先生」(写)	[昭和18年]	大杉冨美子	1943
【原稿類　C】				
大杉Ｃ－１	「非ユウクリッド幾何学概観」(日本女子大学校家政学部第二類卒業論文原稿)	[昭和14年度]	大杉冨美子	1939-1940

資料番号	資料表記			年代
	資料名	年・年度・自至	作成者	
【メモ類 D】				
大杉D-1	[目次メモ「しゆわるつノ不等式、ほか](写)	[昭和22～27年度]	[唐澤冨美子]	1947-1953
大杉D-2	[ビーナッツマカロンのレシピ]		[唐澤冨美子]	
大杉D-3	[買い物メモ]		[唐澤冨美子]	
【文書類 F】				
大杉F-1	保育証書(大杉冨美子)	大正14年3月24日	日本女子大学校附属豊明幼稚園	1925
大杉F-2	卒業証書(大杉冨美子)	昭和6年3月23日	日本女子大学校附属豊明小学校	1931
大杉F-3	卒業証書(大杉冨美子)	昭和11年3月23日	日本女子大学校附属高等女学校	1936
大杉F-4	[卒業証書](大杉冨美子)	昭和15年3月25日	日本女子大学校	1940
大杉F-5	[学士試験合格証書](大杉冨美子)	昭和18年9月25日	北海道帝国大学	1943
大杉F-6	教員免許状　師範学校中学校高等女学校教員無試験検定合格者(家事　大杉冨美子)	昭和15年7月18日	文部省	1940
大杉F-7	教員免許状　高等学校高等科教員無試験検定合格者(数学　大杉冨美子)	昭和19年1月10日	文部省	1944
大杉F-8	[辞令(研究員ヲ命ス)](大杉冨美子)	昭和19年10月3日	逓信省電気試験所	1944
大杉F-9	[賞与通知(四拾円)](研究員大杉冨美子)	昭和19年12月9日	電気試験所	1944
大杉F-10	[発令通知(任逓信技官)](大杉冨美子)	昭和21年6月30日	電気試験所庶務課長	1946
大杉F-11	[発令通知(給十号俸)](逓信技官　大杉冨美子)	昭和21年7月1日	電気試験所庶務課長	1946
大杉F-12	[発令通知(十一号俸)](逓信技官　大杉冨美子)	昭和22年9月30日	電気試験所庶務課長	1947
大杉F-13	[発令通知(十二号俸)](逓信技官　大杉冨美子)	昭和22年12月31日	電気試験所庶務課長	1947
大杉F-14	[発令通知(7級7号俸)](通商産業技官　唐澤冨美子)	[昭和26年1月1日]	工業技術庁電気試験所	1951
大杉F-15	人事異動通知書 [辞職承認](唐澤冨美子)	昭和27年9月15日	工業技術院電気試験所	1952
大杉F-16	履歴書(唐澤冨美子)	昭和27年12月16日	工業技術院電気試験所	1952
大杉F-17	大正十四年度通知簿(第一学年　大杉冨美子)	大正14年度	日本女子大学校附属豊明小学校	1925-1926
大杉F-18	大正十五年度通知簿(第二学年　大杉冨美子)	大正15年度	日本女子大学校附属豊明小学校	1926-1927

資料番号	資料表記			年代
	資料名	年・年度・自至	作成者	
大杉Ｆ-19	昭和二年度通知簿(第三学年　大杉冨美子)	昭和２年度	日本女子大学校附属豊明小学校	1927-1928
大杉Ｆ-20	昭和三年度通知簿(第四学年　大杉冨美子)	昭和３年度	日本女子大学校附属豊明小学校	1928-1929
大杉Ｆ-21	昭和四年度通知簿(第五学年　大杉冨美子)	昭和４年度	日本女子大学校附属豊明小学校	1929-1930
大杉Ｆ-22	昭和五年度通知簿(第六学年　大杉冨美子)	昭和５年度	日本女子大学校附属豊明小学校	1930-1931
大杉Ｆ-23	学業成績概評[昭和八年度第三学期成績](第三学年東組　大杉冨美子)	昭和８年度	日本女子大学校附属高等女学校	1933-1934
大杉Ｆ-24	学業成績概評[昭和九年度第三学期成績](第四学年東組　大杉冨美子)	昭和９年度	日本女子大学校附属高等女学校	1934-1935
大杉Ｆ-25	学業成績概評[昭和十年度第二学期成績](第五学年東組　大杉冨美子)	昭和10年度	日本女子大学校附属高等女学校	1935-1936
大杉Ｆ-26	[卒業成績]証明書(昭和十五年三月家政学部第二類卒業　大杉冨美子)	昭和15年３月14日	井上秀(日本女子大学校長)	1940
大杉Ｆ-27	昭和六年度授業料領収証(高等女学校一年生東組　大杉冨美子)	昭和６年度	日本女子大学校	1931-1932
大杉Ｆ-28	昭和六年度自治費(第一学年東組　大杉冨美子)	昭和６年度	[日本女子大学校]	1931-1932
大杉Ｆ-29	昭和七年度授業料領収証(高等女学校第二年生東組　大杉冨美子)	昭和７年度	日本女子大学校	1932-1933
大杉Ｆ-30	昭和七年度自治費(第貳学年東組　大杉冨美子)	昭和７年度	[日本女子大学校]	1932-1933
大杉Ｆ-31	昭和八年度授業料領収証(高等女学校三年生東組　大杉冨美子)	昭和８年度	日本女子大学校	1933-1934
大杉Ｆ-32	昭和八年度自治費(第参学年東組　大杉冨美子)	昭和８年度	[日本女子大学校]	1933-1934
大杉Ｆ-33	若葉会費積立票(第一学年　大杉冨美子)	[昭和６年度]	[日本女子大学校]	1931-1932
大杉Ｆ-34	昭和九年度授業料領収証(高等女学校四年生東組　大杉冨美子)	昭和９年度	日本女子大学校	1934-1935
大杉Ｆ-35	昭和四年度受領証(豊明小学校第五学年　大杉冨美子)	昭和４年度	日本女子大学校	1929-1930
大杉Ｆ-36	昭和五年度受領証(豊明小学校六年生　大杉冨美子)	昭和５年度	日本女子大学校	1930-1931
大杉Ｆ-37	学力検定試験受験証票(大杉冨美子)	昭和16年	北海道帝国大学理学部	1941
大杉Ｆ-38	第二次入学志願者受験証票(大杉冨美子)	昭和16年	北海道帝国大学理学部	1941

資料番号	資料表記			年代
	資料名	年・年度・自至	作成者	
大杉Ｆ-39	昭和十六年度第二次入学試験日割	昭和16年度	北海道帝国大学理学部	1941
大杉Ｆ-40	入学許可書(大杉冨美子)	昭和16年４月11日	北海道帝国大学理学部	1941
大杉Ｆ-41	学生生徒必携(「在学証　昭和十六年入学　理学部数学科　大杉冨美子」付き)	昭和16年６月26日交付	北海道帝国大学	1941
大杉Ｆ-42	身分証明書(理学部学生　大杉冨美子)	昭和18年９月23日	小熊捍(北海道帝国大学理学部長)	1943
大杉Ｆ-43	北海道帝国大学理学部図書借用証券(袋付き)	[昭和16～18年]	北海道帝国大学理学部[図書室]	1941-1943
大杉Ｆ-44	[図書]帯出者カード(数学教室　１年　大杉冨美子)	[昭和16年度]	北海道帝国大学理学部図書室	1941-1942
大杉Ｆ-45	[図書]帯出者カード(数学教室　２年　大杉冨美子)	[昭和17年度]	北海道帝国大学理学部図書室	1942-1943
大杉Ｆ-46	パン特別購入券(板橋区江古田町　大杉冨美子)	[昭和20～23年]	東京都	1945-1948
大杉Ｆ-47	卒業証明書(海大理卒証第87号/大杉冨美子)(写)	平成18年５月29日	岡田尚武(北海道大学理学部長)	2006
大杉Ｆ-48	[成績]証明書(海大理証369号/大杉冨美子)(写)	平成18年５月29日	岡田尚武(北海道大学理学部長)	2006
【刊行物　G】				
大杉Ｇ-１	『北海道帝国大学学生生徒便覧　昭和十六年四月』	昭和16年４月発行	学生課	1941
大杉Ｇ-２	『大杉くま追想集　やまゆり』	昭和45年12月９日発行	唐澤冨美子(ソオル社)	1970
大杉Ｇ-３	唐澤冨美子「私と暮らし」(『グラフねりま』第５号、26頁)(写)	昭和61年１月発行	東京都練馬区企画部広報課	1986
【視聴覚資料類　H】				
大杉Ｈ-１	大杉冨美子(ピアノ演奏)	[大正９～11年]		1920-1922
大杉Ｈ-２	大杉冨美子(雑司ヶ谷鬼子母神境内にて)	[大正12～14年]		1923-1925
大杉Ｈ-３	大杉正夫、大杉冨美子(雑司ヶ谷金山にて)	[大正12～14年]		1923-1925
大杉Ｈ-４	大杉冨美子(高等女学校生、証明写真)	昭和６年５月		1931
大杉Ｈ-５	清水民子、大杉冨美子(高等女学校生)	昭和７年10月11日		1932
大杉Ｈ-６	日本女子大学校附属高等女学校第３学年東組卒業記念	昭和９年３月24日		1934
大杉Ｈ-７	横井伝右衛門を囲む横井・大杉一家(大杉家門前にて)	昭和９年春		1934
大杉Ｈ-８	大杉冨美子（高等女学校生、証明写真)	昭和11年春		1936

資料番号	資料表記			年代
	資料名	年・年度・自至	作成者	
大杉Ｈ- 9	大杉冨美子、他２名(神宮外苑にて)	昭和13年２月12日		1938
大杉Ｈ-10	大杉冨美子（日本女子大学校生、証明写真)	昭和14年春		1939
大杉Ｈ-11	大杉冨美子（日本女子大学校物理学教室にて)	[昭和14～15年]		1939-1940
大杉Ｈ-12	大杉冨美子､渡邊雅(北海道帝国大学の温室にて)	昭和16年４月		1941
大杉Ｈ-13	北海道帝国大学理学部数学科第12期クラス会	昭和16年６月11日		1941
大杉Ｈ-14	北海道帝国大学理学部数学科第12期クラス会	昭和16年12月11日		1941
大杉Ｈ-15	功力金二郎教授（スキー姿)	[昭和16～17年冬]		1941-1942
大杉Ｈ-16	大杉冨美子(中島武三宅前にて、南４条西16丁目)	[昭和16～18年]		1941-1943
大杉Ｈ-17	大杉冨美子(中島武三宅前にて、南４条西16丁目)	[昭和16～18年]		1941-1943
大杉Ｈ-18	大杉冨美子	[昭和16～18年]		1941-1943
大杉Ｈ-19	大杉冨美子、渡邊雅(クラーク像前にて)	[昭和16～18年]		1941-1943
大杉Ｈ-20	渡邊雅	[昭和16～18年]		1941-1943
大杉Ｈ-21	大杉冨美子、渡邊雅、桂田芳枝助手	[昭和16～18年]		1941-1943
大杉Ｈ-22	大杉冨美子	昭和19年３月19日		1944
大杉Ｈ-23	大杉冨美子、他２名	昭和23年夏		1948
大杉Ｈ-24	唐澤冨美子、酒井十代、澤田満喜、添谷晃子、他１名	昭和30年夏		1955
大杉Ｈ-25	唐澤冨美子、添谷晃子	昭和38年８月19日		1963
大杉Ｈ-26	唐澤・関口一家(唐澤冨美子、朝永領子、唐澤憲一、他５名)	[昭和39年]		1964
大杉Ｈ-27	唐澤冨美子(自宅玄関前にて)	昭和39年７月５日		1964
大杉Ｈ-28	唐澤冨美子(自宅庭にて、猫チビを抱いて)	昭和39年７月26日		1964
大杉Ｈ-29	唐澤冨美子(自宅庭にて)	昭和39年９月６日		1964
大杉Ｈ-30	唐澤冨美子(自宅玄関前にて、猫を抱いて)	昭和42年７月23日		1967
大杉Ｈ-31	唐澤冨美子(柳糸亭前にて)	昭和44年春		1969

資料番号	資料表記			年代
	資料名	年・年度・自至	作成者	
大杉H-32	唐澤冨美子（柳糸亭にて）	［昭和39～44年］		1964-1969
大杉H-33	唐澤冨美子	昭和52年４月２日		1977
大杉H-34	唐澤冨美子(『グラフねりま』第５号掲載写真)	昭和60年秋		1985
大杉H-35	［録音テープ(大杉くま法要)］	昭和45年７月12日		1970
大杉H-36	［録音テープ(雑司ヶ谷時代の回想)］	昭和45年７月13日		1970
大杉H-37	［録音テープ(江古田時代の回想)］	昭和45年７月20日夜		1970
大杉H-38	［録音テープ(江古田時代の回想、親類の話)］	昭和45年７月26日夜		1970

⑴ 推定は［　　］表記、不明は空欄とした。
⑵ 唐澤冨美子関係資料の資料番号の記号は、時代にかかわらず、「大杉」を採用した。
⑶ 資料名欄における補記は（　）表記とした。コピー等の複写の場合は、資料名欄に（写）と記載した。
⑷ 写真類（H-１～H-34）の資料名欄には、被写体の人物名・時期・場所など、写真から判別できる名称を付けた。
⑸ 目録作成にあたっては、『柳』、『美』、『雑文集　馬の足』等を参照した。

唐澤隆三略年譜

1918年	５月４日、長野県小縣郡滋野村に生まれる
1931年	３月23日、滋野尋常高等小学校尋常科卒業
1936年	３月３日、長野県立上田中学校卒業
1937年	４月、横浜市郊外の純真学園（岡本利吉主宰）で学ぶ（～７月）
1938年	４月、東京物理学校高等師範科に入学
1941年	３月21日、東京物理学校高等師範科数学部卒業
	４月、北海道帝国大学理学部数学科入学
	７月30日、師範学校中学校高等女学校教員無試験検定（数学）合格
1943年	９月25日、北海道帝国大学理学部数学科卒業
	10月１日、第一補充兵（歩兵）にして東部五十連隊に入隊の臨時召集令状を受ける
	10月１日、海軍予備学生に命ぜられる／海軍省
	10月１日、海軍兵学校入校／海軍省
	10月５日、北海道帝国大学大学院特別研究生合格
	12月25日、横浜海軍航空隊に転属、海軍兵学校退校
	12月29日、洲ノ埼海軍航空隊に転属
1944年	５月31日、任海軍少尉／内閣
	５月31日、充員召集。武山海兵団附／海軍省

1944年	６月19日、武山海兵団に着任
1945年	４月20日、兼武山警備隊附／海軍省
	９月５日、任海軍中尉／内閣
	９月６日、充員召集解除／海軍省
1946年	１月28日、人民塾を開講（～５月２日）
	８月22日、長野県上田中学校勤務（～1947年３月31日）
1947年	10月７日、北海道大学応用電気研究所にて数学に関する研究嘱託（～1948年３月31日）
1948年	１月31日、北海道大学応用電気研究所にて副手（数学部門）
	３月31日、北海道大学応用電気研究所にて研究員（数学部門）
	６月17日、北海道大学応用電気研究所にて雇（数学部門）
1949年	３月８日、大杉冨美子と結婚
	10月25日、北海道立札幌女子高等学校にて非常勤講師（～1950年３月31日）
1950年	２月28日、任文部教官３級（助手）／北海道大学（応用電気研究所、～６月30日）
	６月30日、東京都立桜町高等学校勤務
1952年	４月１日、東京都立第四商業高等学校に転任
1954年	11月20日、ソオル社を設立
	12月１日、個人誌『柳』を創刊
1956年	２月、石川三四郎著『浪』をソオル社から発行
	９月、石川三四郎著『わが非戦論史』をソオル社から発行
1957年	12月、唐澤隆三編『石川三四郎書簡集』（ソオル社）発行
1958年	７月、唐澤隆三編『福田英子書簡集』（ソオル社）発行
	10月、唐澤隆三著『黒いネクタイ　唐沢隆三句集』（ソオル社）発行
1963年	４月１日、東京都立北高等学校に転任
1965年	５月、唐澤隆三著『自由律俳句史ところどころ』（ソオル社）発行
1967年	４月１日、東京都立大山高等学校に転任
1971年	11月、唐澤隆三著『自由律俳句史雑記』（ソオル社）発行
1972年	東京都立牛込商業高等学校に転任
	７月、唐澤隆三著『馬の足　雑文集』（ソオル社）発行
1973年	５月、唐澤隆三著『ふるさと　詩集』（ソオル社）発行
1979年	３月、東京都立高等学校教諭を退職。
	東京都立豊島高等学校（定時制）で非常勤講師として数年間勤務
1999年	２月、個人誌『美』を創刊
2011年	２月、個人誌『柳』を終刊
	５月６日、死去

唐澤（大杉）冨美子略年譜

1918年	7月13日、東京府北豊島郡高田村に生まれる
1925年	3月24日、日本女子大学校附属豊明幼稚園卒園
1931年	3月23日、日本女子大学校附属豊明小学校卒業
	4月、日本女子大学校附属高等女学校入学
1936年	3月23日、日本女子大学校附属高等女学校卒業
	4月、日本女子大学校家政学部第二類入学
1940年	3月25日、日本女子大学校家政学部第二類卒業（第37回生）
	4月、東京物理学校にて聴講（第2学年数学科）
	7月18日、師範学校中学校高等女学校教員無試験検定（家事）合格
1941年	4月、北海道帝国大学理学部数学科入学
1943年	9月25日、北海道帝国大学理学部数学科卒業
1944年	1月19日、高等学校高等科教員無試験検定（数学）合格
	4月13日、日本女子大学校家政学部第二類講師嘱託（～9月30日）
	9月27日、弟正夫、中国にて戦病死
	10月3日、電気試験所入所（研究員）／運輸逓信省
1945年	1月31日、父鑑二死去
1946年	3月12日、電気試験所にて数学研究班班員に配属
	6月30日、任逓信技官／逓信省（電気試験所基礎部に勤務）
1949年	3月8日、唐澤隆三と結婚
1951年	10月1日、電気試験所物理部応用数学課に勤務
1952年	9月15日、通商産業技官（電気試験所）を退職
1954年	11月20日、夫隆三がソオル社を設立。以後、ソオル社の出版事業に従事
1970年	6月9日、母くま死去
	12月、唐澤冨美子編『やまゆり　大杉くま追想集』（ソオル社）を発行
1997年	2月3日、死去

備考　履歴書・証書類等をもとに作成し、『柳』により補完した。

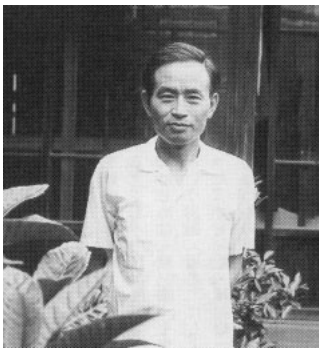
【解　　題】

山本　美穂子

１．唐澤隆三・唐澤冨美子について　（敬称略）

《唐澤隆三について》

唐澤隆三（1918-2011）は1918年５月長野県小縣郡滋野村に生まれ、1936年３月上田中学校を卒業した。上田中学校在学時代から短歌や俳句に親しみ、荻原井泉水の俳句誌『層雲』の誌友となった。1937年岡本利吉主宰の純真学園で約半年間学び、1938年４月～1941年３月東京物理学校高等師範科数学部を経て、1941年４月北海道帝国大学理学部数学科に入学した。理学部数学科では、微分幾何学を専攻して、穂刈四三二助教授（射影幾何学）・河口商次教授（幾何学）に師事した。数学者を志していたが、戦時による在学年限短縮により、北海道帝国大学を1943年９月25日繰り上げ卒業となった。10月１日第一補充兵（歩兵）として東部五十連隊に入隊の臨時召集令状を受けたため、北海道帝国大学を卒業後は直ちに海軍予備学生となる道を選び、10月１日海軍兵学校に入校した。



唐澤隆三（1964年）
（『柳』第713号、９頁より）

一方、大学の研究員の養成・確保を維持するため、1943年９月25日、文部省は帝国大学の大学院等に特別研究生を置くことを定め、10月１日から施行した。北海道帝国大学には特別研究生41名（理学部８名）が割り当てられた（『北大百年史　通説』1982年、294～295頁）。唐澤隆三には、1943年10月５日付で北海道帝国大学大学院特別研究生の合格通知が送付された。しかし、大学院特別研究生の入営延期が可能となったのは、1943年11月13日（陸軍省令第54号「修学継続ノ為ノ入営延期等ニ関スル件」及び陸軍省告示第54号）であった。さらに、既に海軍兵学校に入校していたこと等が重なり、唐澤隆三は1945年９月召集解除を受けるまで海軍に属することとなった。

終戦後、唐澤隆三は郷里の上田中学校で教諭生活を送った後、射影接続幾何学の研究のため、1947年10月～1950年６月北海道大学応用電気研究所の数学部門に籍を置き、連続群論に取り組んだ。離札後は、東京都立高等学校の数学教諭として教鞭を執りながら、文芸活動に勤しんだ。1954年に創業した自身の出版社「ソオル社」からは、社会主義運動家石川三四郎の著作・書簡集や、自由律俳句史、自身の詩集・句集、個人誌『柳』・『美』などを発行した。個人誌『柳』（月刊）は2011年２月に第863号で終刊するまで57年間も発行された。

《唐澤冨美子について》

大杉冨美子(1941-43年頃)
（大杉H-16）

唐澤冨美子（1918-1997、旧姓：大杉）は、1918年７月東京府北豊島郡高田村に生まれた。幼稚園から日本女子大学校附属校に通い、1936年３月日本女子大学校附属高等女学校を卒業し、1940年３月日本女子大学校家政学部第二類を卒業した。帝国大学進学を志して東京物理学校で数学を聴講し、1941年４月には北海道帝国大学理学部数学科に入学した。理学部数学科では守屋美賀雄教授（代数学）に師事し、1943年９月同大学理学部数学科を卒業した。卒業後は東京に戻り、母校で教鞭を執った後、1944年10月運輸逓信省所管の電気試験所へ入所した。電気試験所では研究員・逓信技官・通商産業技官として1952年まで数学研究に携わった。1949年３月、北大理学部数学科で同級生だった唐澤隆三と結婚した。体が弱かったこともあり、1952年９月電気試験所を退職した。退職後は、ソオル社の出版事業を取り仕切り、夫の文芸活動を支え続けた。

２．唐澤隆三・唐澤冨美子関係資料について

北海道大学大学文書館では、帝国大学への女性の進学に関する調査を進めるにあたり、故 唐澤冨美子さん（北海道帝国大学理学部数学科1943年卒業）のご尊夫であり、かつ同級生であった唐澤隆三氏に2005年から調査にご協力をいただいた。2006～2010年にかけて、唐澤隆三氏からは、唐澤隆三関係資料（27件）・唐澤冨美子関係資料（98件）もご寄贈いただいた。

ノート類（分類Ｂ）	唐澤隆三１件（唐澤Ｂ-１）
	唐澤冨美子５件（大杉Ｂ-１～大杉Ｂ-５）
原稿類（分類Ｃ）	唐澤冨美子１件（大杉Ｃ-１）
メモ・手帳類（分類Ｄ）	唐澤冨美子３件（大杉Ｄ-１～大杉Ｄ-３）
文書類（分類Ｆ）	唐澤隆三19件（唐澤Ｆ-１～唐澤Ｆ-19）
	唐澤冨美子48件（大杉Ｆ-１～大杉Ｆ-48）
刊行物（分類Ｇ）	唐澤隆三７件（唐澤Ｇ-１～唐澤Ｇ-７）
	唐澤冨美子３件（大杉Ｇ-１～大杉Ｇ-３）
視聴覚資料類（分類Ｈ）	唐澤冨美子38件（大杉Ｈ-１～大杉Ｈ-38）

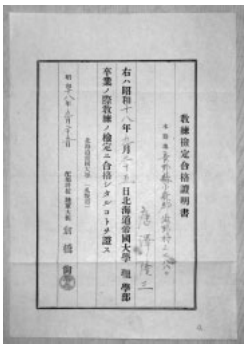
受贈資料の種類は、①ノート類、②証書・文書類、③原稿類、④メモ類（唐澤冨美子による日常生活のメモ等）、⑤刊行物（ソオル社の出版物）、⑥写真（幼児の頃から結婚後に至るまでの唐澤冨美子の写真）・録音テープ（夫妻の対談など）である。

ノート類（分類Ｂ）では、唐澤冨美子関係資料に、生徒・学生時代に数学書を筆写したノートや、北海道帝国大学理学部数学科での受講ノート（写）が３件ある。受講ノートに

ついて、唐澤隆三は「大学時代には教科書がありませんから、試験のときはノートを持っていないわたしは勉強ができず、困りました。ところが、冨美子は先生の講義をすらすらとその時間のうちに記録してしまうという才能を持っていました」（『柳』第703号、1998年５月、８頁）と回想している。

原稿類（分類Ｃ）では、唐澤冨美子関係資料に、日本女子大学校家政学部第二類の卒業論文原稿「非ユウクリッド幾何学概観」がある。日本女子大学校生徒から数学研究を志していたことがうかがわれる資料である。

文書類（分類Ｆ）では、唐澤隆三関係資料に、「教練検定合格証明書」、「大学院特別研究生合格通知」など、戦時下の大学生が置かれた状況をあらわす資料が含まれている。



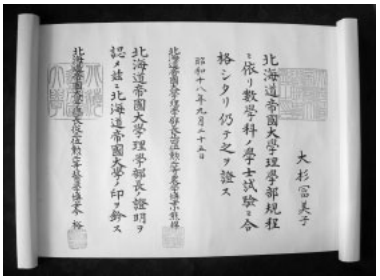
教練検定合格証明書（1943年）
（唐澤Ｆ-２）

大学院特別研究生合格通知（1943年）
（唐澤Ｆ-３）

一方、唐澤冨美子関係資料には、卒業証書類（日本女子大学校附属豊明幼稚園・豊明小学校・高等女学校、日本女子大学校家政学部第二類、北海道帝国大学理学部数学科）が揃っている。また、北海道帝国大学の受験資料（学力検定試験受験証票、第二次入学志願者受験証票、昭和十六年度第二次入学試験日割）、入学資料（入学許可書）、在学資料（学生生徒必携、身分証明書など）も揃っている。「終戦前に旧制大学で学び卒業した女性がいたことは事実ですが、それをうかつにも知らない人がいて、そのことを教えてやっても信じようとしない人もいたことをわたし自身が経験しています」（『柳』第733号、2000年６月、３頁）という唐澤隆三氏が、冨美子さんの逝去後、精力的に、北海道帝国大学へ入学した女性に関する資料をまとめようとした賜物である。

（やまもと　みほこ／北海道大学大学文書館員）

「学生生徒必携」（1941年）
（大杉Ｆ-41）



学士試験合格証書（1943年）
（大杉Ｆ-５）